

Hospitality

地域のホスピタリティを訪ねて

子どもたちが安心して暮らせるまちへ

キャップ
はまだCAP 代表 大西 佐和子
(おおにし・さわこ)

私たち「^{キャップ}はまだCAP」は、家庭や学校、地域で子どもたちが安心して暮らせるまちを目指して島根県石央エリアで活動しているグループです。子どもが自分自身を大切な存在だと思う感覚を育むためワークショップや研修を行い、子ども同士、子どもとおとな、そしておとな同士が助け合って安心、安全な生活がおくれるように取り組んでいます。

CAPとは

CAP(Child Assault Prevention)とは、「子どもへの暴力防止」という意味です。人は食べることや寝ることと同じように、誰もが安心して、自信を持って、自由に生きる権利を持っています。しかし、いじめ・虐待・性暴力や犯罪など、嫌なことや怖いことにあうと、この大切な3つの権利「安心・自信・自由」が奪われてしまいます。もしも、暴力(人の心と身体を傷つけること)にあいそうになって、大切な3つの権利が奪われそうになったら、自分の身を守るために何ができるのか。教職員、保護者、地域のおとな、そして子ども自身に伝え、共に考えていくのが**予防教育CAPプログラム**です。

このプログラムは、おとなが子どもを管理指導したり、禁止したりするものではありません。子どもが本来持っている力を引き出し、自分もできるという問題解決能力を育みます。私たちは、CAPプログラムを一人でも多くの子どもたちに提供することで、子ども自身が人権意識を持ち、子どもの人権が尊重される社会になることを願っています。自分は大切にされていると感じると、他者のことも大切にできます。被害者も加害者もつづらない、安心して暮らせるまちを学校・家庭・地域の三者が一体となって考えていく活動です。

CAPの歴史

CAPプログラムは、1978年にアメリカで子どもを犯罪から守るために作られ、世界十数カ国に広がっています。1985年に日本に紹介され、今では全都道府県でCAPスペシャリストが活動し、県内では3グループ「島根CAP(松江拠点)」「ますだCAP(益田拠点)」「はまだCAP」があります。



はまだCAPの活動

はまだCAPは2004年10月に発足し、現在7名(男性1名、女性6名)で、仕事を持ちながら、「できることをできるときに」「自分自身の安心・自信・自由を大切に」して、楽しく取り組んでいます。

学校や保育園からの依頼があれば、まず保護者や教職員ワークショップを行い、その後子どもたちにプログラムを提供します。ここ数年は県や浜田市から助成をいただき、保育園での教職員研修や地域での人権研修、講演会を開催しています。そして、私たちも“地域の居場所「まちの縁側」さん”をお借りして毎月1回定例会を持ち、より良い活動ができるよう勉強しています。

発足から12年、仕事との両立の中、ここまで続けてこられたのも地域の皆様のご理解とご協力があったのことに感謝しています。これからも地域の方々と一緒に子どもが安心して暮らせるまち=誰もが住みやすいまちを目指して活動していきたいと思ひます。

